

手術部

1 構成員

| | 平成21年3月31日現在 |
|--------------------------|--------------|
| 教授 | 0人 |
| 准教授 | 1人 |
| 講師（うち病院籍） | 0人（0人） |
| 助教（うち病院籍） | 2人（2人） |
| 助手（うち病院籍） | 0人（0人） |
| 特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む） | 0人 |
| 医員 | 0人 |
| 研修医 | 0人 |
| 特任研究員 | 0人 |
| 大学院学生（うち他講座から） | 0人（0人） |
| 研究生 | 0人 |
| 外国人客員研究員 | 0人 |
| 技術職員（教務職員を含む） | 1人 |
| その他（技術補佐員等） | 1人 |
| 合 計 | 5人 |

2 教員の異動状況

白石 義人（准教授，部長）（H15. 7. 1～H19. 3. 31助教；H19. 4. 1～現職）

森田 耕司（助教）（S53. 4. 16～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）

中川智永子（助教）（H18. 10. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

| | 平成20年度 |
|---------------------|--------|
| (1) 原著論文数（うち邦文のもの） | 5編（2編） |
| そのインパクトファクターの合計 | 7.357 |
| (2) 論文形式のプロシーディングズ数 | 1編 |
| (3) 総説数（うち邦文のもの） | 0編（0編） |
| そのインパクトファクターの合計 | 0 |
| (4) 著書数（うち邦文のもの） | 7編（7編） |
| (5) 症例報告数（うち邦文のもの） | 0編（0編） |
| そのインパクトファクターの合計 | 0 |

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 白石義人, 森田潔, 中尾三和子, 上園晶一, 中馬理一郎, 古家仁: 吸入麻酔薬による全身麻酔中の局所への血管収縮薬 (エピネフリン) の使用状況ならびに偶発症発生に関する緊急アンケートの報告 - (社) 日本麻酔科学会安全委員会医薬品適正評価ワーキンググループ, 安全委員会, 総務委員会報告一. 麻酔58 (3): 378-383, 2009
2. 白石義人: 神経筋接合部に影響する薬物とモニタリング「神経筋接合部を意識した筋弛緩薬投与方法とモニタリング」. 臨床麻酔学会誌 29 (1): 15-22, 2009
インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Suzuki A, Makino H, Sanjo Y, Nakai T, Mochizuki K, Shiraishi Y, Katoh T, Sato S: A Visual stethoscope for pediatric patient. Pediatric Anesthesia 18: 332-361, 2008 [1.461]
2. K.Takata, T.Kurita, Y.Morishima, K.Morita, M. Uraoka and S.Sato: Do the kidneys contribute to propofol elimination?, British Journal of Anaesthesia 101 (5): 648-52 (2008) [2.948]
3. T.Kurita, K.Takata, K.Morita and S.Sato: Lipophilic β -adrenoceptor antagonist propranolol increases the hypnotic and anti-nociceptive effects of isoflurane in a swine model, British Journal of Anaesthesia 100 (6): 841-5 (2008) [2.948]

インパクトファクターの小計 [7.357]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森田耕司, 村松里香, 鶴見智子, 白石義人, 石野直己, 住谷健二, 磯山徹: 耐久性のある 2 次元シンボルを付加された手術用鋼製器具とそれらの滅菌再生 - 手術供用までの一貫管理システムについて. 医療機器学 78 (4): 75-77, 2008

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森田耕司, 第13章呼吸計測装置, (社) 日本生体医工学ME技術教育委員会, MEの基礎知識と安全教育 (改訂5版), 南江堂, 東京, 180-189, 2008
2. 森田耕司, 第1章コンピュータの基礎, 日本医療機器学会MDIC認定委員会, MDIC標準テキスト「医療情報・標準化」, 日本医療機器学会, 東京, 23-35, 2008
3. 中川智永子, 第13章腎疾患, S. Datta 編竹田省/照井克生監訳, ハイリスク妊婦の産科的・麻酔科的管理, シュプリンガー・ジャパン, 東京, 197-204, 2008
4. 中川智永子, 第14章内分泌疾患, S. Datta 編竹田省/照井克生監訳, ハイリスク妊婦の産科的・麻酔科的管理, シュプリンガー・ジャパン, 東京, 205-218, 2008
5. 中川智永子, 第28章発熱妊婦, S. Datta 編竹田省/照井克生監訳, ハイリスク妊婦の産科的・麻酔科的管理, シュプリンガー・ジャパン, 東京, 409-420, 2008

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 高木佑美紀, 白石義人：第5章術中に使用する装置・機械・材料, 3. 術中モニター「実践心臓血管外科手術マニュアル」松田捷彦（編）メディカ出版,（大阪）p211-217, 2008
2. 足立裕史, 白石義人：第5章術中に使用する装置・機械・材料, 4. 心拍出量測定装置「実践心臓血管外科手術マニュアル」松田捷彦（編）メディカ出版,（大阪）p217-222, 2008

4 特許等の出願状況

| | 平成20年度 |
|--------------|--------|
| 特許取得数（出願中含む） | 0件 |

5 医学研究費取得状況

| | 平成20年度 |
|--------------------|----------|
| (1) 文部科学省科学研究費 | 0件（0万円） |
| (2) 厚生科学研究費 | 0件（0万円） |
| (3) 他政府機関による研究助成 | 0件（0万円） |
| (4) 財団助成金 | 0件（0万円） |
| (5) 受託研究または共同研究 | 1件（10万円） |
| (6) 奨学寄附金その他（民間より） | 0件（0万円） |

(5) 受託研究または共同研究

1. 炭素皮膜コーティングによる2次元バーコードを使用した手術用鋼製機器の周手術管理システムの開発, 瑞穂医科工業, 2008. 4. 1-2009. 3. 31, 白石義人, 10万

7 学会活動

| | 国際学会 | 国内学会 |
|-----------------|------|------|
| (1) 特別講演・招待講演回数 | 0件 | 1件 |
| (2) シンポジウム発表数 | 0件 | 0件 |
| (3) 学会座長回数 | 0件 | 2件 |
| (4) 学会開催回数 | 0件 | 0件 |
| (5) 学会役員等回数 | 0件 | 8件 |
| (6) 一般演題発表数 | 7件 | |

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Okada H, Nakagawa C, Taniguchi M, Sato S: Anesthetic Management of a parturient with myasthenia gravis and antiphospholipid syndrome. 2008 40th Annual Meeting of Society for Obstetric Anesthesia and Perinatology; April 30-May4, 2008. Chicago, Illinois. USA.

口頭発表

1. Shiraishi Y, Mimuro S, Takagi Y, Sato S: Rapid Decrease of Bronchial Cuff Pressure Is Usefull for Detection of Bronchial Cuff Slippage. 2008 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA); 2008. 10. 18-22. Orlando, FL. USA
2. Kawashima Y, Shiraishi Y, Sato S: Does the Pleth Variability Index correlate with Stroke Volume Variation? Euroanaesthesia 2009, 2009. 06. 06-09. Milan, Italy
3. Kato H, Suzuki A, Shiraishi Y, Nakajima Y, Sato S: Visual stethoscope to detect tracheal tube position. International Anesthesia Research Society 2009 Annual Meeting; 2009. 03. 14-17. San Diego, CA, USA
4. Itagaki T, Obata Y, Adachi Y, Shiraishi Y, Sato S: Sevoflurane-induced reduction of nitric oxide in the rat brain striatum is antagonized by nicotine and neostigmine, but not by NMDA. The European Anaesthesiology Congress 2008; 2008. 05. 31-06. 03. Copenhagen, Denmark
5. Adachi YU, Itagaki T, Obata Y, Shiraishi Y, Sato S: Pentobarbital-induced reduction of nitric oxide in the rat brain striatum was antagonized by nicotine and NMDA. The European Anaesthesiology Congress 2008; 2008. 05. 31-06. 03. Copenhagen, Denmark
6. Yamaguchi M, Shibata O, Sumikawa K, Shiraishi Y, Sato S: The effects of olprinone on the contractile response of ovalbumin-sensitized rat trachea. 2008 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA); 2008. 10. 18-22. Orlando, FL. USA

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 森田耕司：招聘パネルディスカッション：手術機械の安全性とスリム化を図るにはどうするか，耐久性のある2次元シンボルを付加された手術用鋼製器具とそれらの滅菌再生-手術供用までの一貫管理システムについて，第83回日本医療機器学会大会，2008年5月30日，東京国際フォーラム（東京）

4) 座長をした学会名

1. 森田耕司：HPSワークショップ（企画責任者），日本蘇生学会第27回大会，2008年10月10，11日 長崎県医師会館（長崎）
2. 森田耕司：シナリオコンテスト（審査員）：第4回日本医学シミュレーション学会総会，2008年10月27日，京都国際会館（京都府）

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

白石義人：

1. 日本麻酔学会 代議員，安全管理委員会（委員，WG長），東海・北陸地方会代議員，「指導医，専門医，標榜医」
2. 日本臨床麻酔学会 評議員

3. 日本ペインクリニック学会 評議員, 「指導医」
4. 日本集中治療医学会 代議員, 「認定医」
5. 日本蘇生学会 評議員

森田耕司：

1. 日本静脈麻酔学会評議員
2. 日本医学シミュレーション学会評議員
3. 日本医学シミュレーション学会高機能患者シミュレータ代表世話人

8 学術雑誌の編集への貢献

| | 国内 | 外国 |
|-------------------|----|----|
| 学術雑誌編集数（レフリー数は除く） | 0件 | 0件 |

9 共同研究の実施状況

| | 平成20年度 |
|------------|--------|
| (1) 国際共同研究 | 0件 |
| (2) 国内共同研究 | 0件 |
| (3) 学内共同研究 | 0件 |

10 産学共同研究

| | 平成20年度 |
|--------|--------|
| 産学共同研究 | 1件 |

1. 炭素皮膜コーティングによる2次元バーコードを使用した手術用鋼製機器の周手術管理システムの開発, 瑞穂医科工業

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

森田耕司：

1. 脳波解析による吸入麻酔薬ならびに静脈麻酔薬の麻酔（鎮静）深度について：セボフルラン（吸入麻酔薬）、プロポフォル（静脈麻酔薬）と位相相関（バイスペクトラル）インデックス（BIS）ならびに95%スペクトラルエッジ周波数（SF95）の関連を薬物動態モデルならびに薬効力学的モデルから解析した。また体動とBIS,SF95の関連をロジスチック解析にて明確化した（原著論文2編において）。
2. 低体温時における脳活動度の新指標について：エントロピーを使用した確率論的冗長度による脳波解析と麻酔深度は、循環停止を伴う大動脈置換術のように超低体温を要求される状況において、位相相関（バイスペクトラル）インデックス（BIS）に比して定量化に優れた事を臨床研究にて研究中である。
3. 臨界危機的状況に置ける患者管理手法の検討：日本麻酔科学会学術集会ならびに日本臨床麻酔学会大会、医学シミュレーション学会、東京麻酔医専門会において、臨界危機的状況に置ける麻酔管理の訓練を目的に高機能患者シミュレータを使用したセミナーを代表責任

者，インストラクター，招聘演者として活動した。